



まち一体で守る
『土佐天空の郷』

2021/9/14
本山町農業公社

組織所在地：本山町のご紹介①



四国の真ん中に
位置しています

<町の概要>
総面積 134.21km²
人口 3371人(2021年8月)
高齢化率 45%を超える

<棚田が自慢！>
標高 約250m~800m
耕地面積 約280ha



本山町のご紹介② 主な農産物



米



パプリカ



土佐あかうし



原木椎茸



しじょうが



りゅうきゅう

「多面的機能支払交付金」運営組織の概要

●組織名：「土佐天空の郷保全会」
まち自慢のお米に名前を由来



●対象農用地：
【田】18,243a
【畑】1,223a



●対象施設：
【農道】35.6km
【水路】56.4km



●構成員の数：
430名、2法人

●本山町まちぐるみで運営



組織設立の経過と取り組みのきっかけ

組織設立の背景

- 1) 担い手の高齢化・減少
 - ・従来の草刈り・田役 → 農家のボランティア活動で実施
 - ・農家が高齢化… → 年々、参加人数が減少
 - ・農地を守る活動の継続が年々 難しくなっている
- 2) 農業用施設の老朽化・損壊
 - ・山間部ゆえ農地面積に対して水路・農道が長い
 - ・そういった施設の老朽化・災害により損壊が発生
 - ・地域でも施設の維持ができる人が減少…
 - ・お金のない地区は修繕が難しい
- 3) 農業用施設の不整備
 - ・もともと整備されていない施設（土道、土水路）が多い
 - ・農業を営むための労力が多分にかかり、耕作の継続を諦めるケースも



田役(水路掃除)の様子



老朽化した農道



土水路

組織 設立を決めたきっかけ

それらの課題に対して,,,

- ・各集落が独自で動くのではなく、まちぐるみで各地域の課題に対処できないか？
- ・町の景観を守るという観点でも農家以外の方にも参加いただけないか？



まち全体で多面的機能支払交付金を活用すると、、、

- 無償で行われていた草刈り・田役に対し、日当などを支払う仕組みで地域の農家以外のメンバー（例：同集落内の非農家、他集落の方々）の参加を促すことができるのでは？
- 従来は施設修繕に費用を捻出できなかった集落でも施設の代規模修繕ができるようになるのではないかな？



具体的な運営方法や活動の内容等

具体的な運営方法① 事務局と委員の役割

- 令和2年3月に「土佐天空の郷保全会」を設立
- 本山町農業公社を拠点とし、同公社職員が2名体制で事務局(計画まとめ・実績集計・支払いなど)を担当
- 18の各地区に地区を「委員」を配置し、「委員」が集落内の意見調整、一斉活動への参加呼びかけを実施



具体的な運営方法② 地区の事情に沿った活動計画策定

- 各集落に農地面積の大きさに応じて予算を割り振り
→ その予算内で地域の活動を策定するよう委員にお任せ

	予算合計
大石	¥1,851,129
栗ノ木	¥180,435
坂本	¥162,024
下関	¥559,872
下津野	¥711,066
助藤	¥257,226
高角	¥500,625
日浦	¥132,549
古田・権代	¥2,868,741
松島・木能津	¥192,864
本山	¥484,014
吉延	¥2,109,567
上関	¥508,578
地区合計	¥10,518,690

- 例えば大石地区では,,,
水路掃除1件と水路の長寿命化工事2件を予定

活動内容(オリジナル)	活動予定E	協定	参加予定人数
川村井水路田役	4月上旬	大石	25
川村井水路修繕	11月上旬	大石	10
「羽出井」コンクリート張り	1月	大石	10

- 例えば坂本地区では,,,
鳥獣害柵の設置や撤去、水路掃除、草刈りなど多数予定

活動内容(オリジナル)	活動予定E	協定	参加予定人数
鳥獣害防止柵の撤去	11月下旬	坂本	3
農道の補修および改修	1月下旬	坂本	15
水路土砂除けと補修	3月下旬	坂本	7
農道の草刈	4月下旬	坂本	5
簡易取水ポンプ設置(臨時的)	7月下旬	坂本	3
農道の草刈	7月下旬	坂本	3
鳥獣害防止柵の設置	9月中旬	坂本	5
農道及び畔の草刈	9月中旬	坂本	5

具体的な運営方法③ 活動実施後の報告方法

- 各地区での活動実施後、各委員から事務局へ実施報告が提出されます

<用紙・写真を使用する報告の例>

<LINEを活用した報告例>

具体的な運営方法④ 事務局での報告情報取り扱い

- 事務局では活動報告を紙保管するとともに、データベース「楽ちゃん多面」へ登録

<活動登録画面>

<金銭出納管理画面>

この他、個人別の支払い明細がわかったり、期末に役場へ提出する報告書を自動で作成してくれたりとても便利です。

具体的な活動紹介

田役(水路掃除)



草刈り



鳥獣害の柵設置



構成員による農道のコンクリ舗装(直営施工)



花の植栽



2021年1月末までの
報告で、のべ72日・
500人が活動を
実施しました

設立して良かった点
悪かった点
苦労した点など



良かった点

- 今までボランティアだった活動に賃金が出ることを構成員が喜んでくれており、当初の展望であった集落外の参加者の増加に繋がる手応えをつかむことが出来た。
- 面積が広い地区も狭い地区も、これまで以上に施設の補修や更新を行うことが出来ている。これが農地を守ることに繋がっていきと感じている。
- 長寿命化案件を皆で話し合う場を持つことで、施設更新のノウハウを横展開する空気が生まれている。
- 「土佐天空の郷保全会」が各地区の課題の共有化・集約化の場として機能している。
- 役場、委員各位ともに非常に協力的で、事務局として多くのサポートをいただくことができ、ありがたかった。

悪かった点

- 各地区の委員にかかる負担が大きかった（名簿収集、活動報告のとりまとめ）
- 地区ごとに交付金に対する理解にズレがあり、報告書の精度や活動の仕切りにばらつきがある。
- 地区ごとに予算を割り振っていることもあり、自分の地区への交付金という考えが起こりがち。

※本来は一つの団体が予算の交付を受け、それを面積に応じて配分しているわけでそれぞれの地区のお金ではない。

事務局として苦労した点

- 各地区からの情報収集（活動計画、構成員情報）してから計画申請をするまでの工数が非常にかかった。特に、構成員が400名あまりと多かったのでこの情報整理に苦労した。
- 農道・水路の把握。特に水路に関しては町全体で網羅的に情報をまとめているものがなく、自分で現場に足を運んだり、委員に現場案内を頂きながら集約していった。
- 支払いの件数が多いこと。年末に100件あまりの口座への一斉振込を実施した際は支払いの明細チェックや口座の最終確認に時間と神経を使った。



今後の展望

今後の展望

- 委員の負担軽減（LINEなどスマホツールの活用）
- 活動への参加者の多様化促進（地区内の非農家、地区外の構成員の参加）
- 修繕・更新を繰り返し、「もう修繕する施設がない」「農業が行いやすい」環境を目指す